

東海林 剛

(民主クラブ)

新総合計画策定にあたっての市長の基本姿勢は

問 富良野は農業を基幹産業として発展してきた。また、ラベンダーの咲く夏には、全国から観光客が訪れるまちとなった。

しかし一方では、市内経済の落ち込み、若い世代の市外流出をくい止める事の出来ない雇用環境、少子高齢化の進展による産業全体の担い手不足等、厳しい経済環境から派生する多くの課題を抱えている。市長は就任以来3年半を経過した。



ラベンダー畑

長い行政経験に裏打ちされた行政手腕は高く評価するものであるが、財政健全化と、まだ形の見えない農村観光都市形成のほか、目指すべき市長の理念は見えてこない。市長ご自身による能登市政の検証と、新総合計画策定にあたっての思い(理念)について伺う。

答 本市は今後、人口減と少子高齢化が一段と顕著になる事が予想され、市内の活力となる労働生産性の向上に大きな影響が懸念される。

基幹産業の農業、農業と連携する観光、さらには商工業、企業振興、雇用対策、移住定住対策などを複合的に取り組む事で経済力の向上につながるものと考えている。

また、福祉、医療、子育て支援や教育など、富良野市に住んで良かったと言えるまちづくりを進めなければならない。

新総合計画の策定に当たっては、これらの状況を再確認し、これからの富良野市を展望する中で、中長期の視点に立って、計画の策定に取り組んでいく所存である。

横山 久仁雄

(市民連合)

橋梁点検と長寿命化修繕計画の進捗状況は

問 本市が管理する市道橋梁は、その数261橋に及ぶ。老朽化し修繕、架け換えが必要な橋も多い。

国は橋梁の点検と、長寿命化修繕計画を策定する自治体に支援することになっているが、本市の点検と計画策定の進捗状況は。

答 現在、現地の点検作業を終わりデータの整理と確認作業を行っている。

問 計画策定期間は。

答 策定期間は本年度分を含め3～4年を目途の予定。

山部川橋の架換えは

問 昭和26年に架けられた同橋は半世紀を経過し、老朽化が著しく進行している。

これまで通行車両の重量制限、全面通行止め、その後歩行と自転車のみ通行可となった。車両は現在も通行止めのまま。生活



早期架換えが望まれる山部川橋

道路であり基幹道路である。農業者は、搬入、搬出に不便を強いられている。架け換えを急ぐべきと思うが。

答 地域や山部地区総合振興協議会からの要望もあり架け換えるの必要性は十分理解している。

問 整備橋梁での優先順位はどこに位置づけられるか。また架け換えの時期は。

答 長寿命化修繕計画の中で具体化を図る。

時期は、平成23年度以降の新総合計画の早い時期と考えている。

【その他の質問】

◇新型インフルエンザ対策について